

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu  
蒼穹

2021.3 Vol.142



**特集** 教育学部一期生は新たなステージへ  
～4年間の学びを糧に～

- ..... P.02
- 「松本大学教育実践改善賞」に県内教員3名が輝く! ..... P.04
- 最高峰のB1リーグに挑戦!!  
ー 信州ブレイブウォリアーズの栄養サポートを中心としたアカデミックサポートを展開ー ..... P.05
- 卒業研究・卒業論文発表会/大学院修士論文審査発表会 ..... P.08
- 松本市地域づくりインターンに間く ..... P.12 ほか

# 教育学部一期生は新たなステージへ ～4年間の学びを糧に～

2017年4月、松本大学の新たな顔として教育学部学校教育学科が誕生し、完成年度を迎えました。たくさんの思い出を胸に、一期生はそれぞれの進路に羽ばたきます。今春で丸4年が経過する教育学部のこれまでの振り返りと今後の展望、また、これから夢の実現をめざす後輩たちへ向けた一期生からのメッセージを紹介します。



## 地域との温かい関係に感謝 はじめての卒業生を送り出すにあたって

松本大学教育学部は、この3月で初めての卒業生を送り出します。「地域の大学を卒業した教員が、地域の子どもたちを教育することで、地域の未来をつくる」をモットーに学生の教育をしてまいりました。そんな地域との温かい関係の中で、学校ボランティア活動から教育実習に至るまで学生を地域とともに教育してきたと感じています。

4年前には、保護者の方々も高校の先生も「海のものとも山のものともわからないこんな出来立ての教育学部は大丈夫なのだろうか」と心配しながら入学を見守っていたことだと思います。開設にあたっては私たち教員も、いろいろなところから集まって来

ました。そして完成年度を迎えた今は「本当にいい学部になった！学生がこんなに成長したのは、教職員や専門員のおかげだ。その教職員や専門員も一人ひとりが成長してきているなあ」と感謝しています。

私は40年間の大学での教員生活に終止符をうつこととなります。振り返ると、多くの学生や同僚たちと大学生活を楽しむことができたことが一番の思い出です。その最後の時間を松本大学の学生と過ごせたことを本当に感謝しています。学生たちは、これから仕事等に就き、希望を持って新しい人生を歩み始める卒業生たちに、一言だけ私がいいつも考えてきたことを書きます。

教育学部 学部長・教授 川島 一夫

それは、自分のためよりも、誰かひとのために働くことができると「幸せ」になれるということです。それは働く時の目標にもなり、励みにもなります。例えば、お金を使うときも誰かのために使うことができれば、自分のために使うよりも「幸せ」（幸せが増える）になれるのです。ぜひ、考えてみてください。

松本大学の学生生活は、厳しいけれど温かい教員たちに鍛えられることで、実のある大学生活を送り、社会に役立つ大人となることができたと考えています。これからも保護者の皆さまや周りの大人たちと一緒に見守っていただける大学であるよう願っています。

## 「真の人間力」をもった教員の育成と 教員採用試験の合格率のさらなる向上をめざす

教育学部学校教育学科は設立から4年目を迎え、今年度全学年すべてのカリキュラムが同時に動き出しました。1年生の「学校ボランティア活動」、2年生の「学校インターンシップ」（今年度は中止）、3年生の「初等教育実習（小学校）」そして4年生の「中等教育実習（中学校）」と「特別支援学校教育実習」、そして「介護等体験」などの実習系の授業が同時進行するのは、学生



にとっても教職員にとっても初めての経験でした。特にコロナ禍での教育実習は大変で、学校現場の先生方のご協力によって、何とか全員が修了することができました。教育実習が教師になるためにとても大切な有意義な経験であることが改めて分かり、今後の教育学部の運営に生かしていきたいと思っています。

教育学部としての今年度の最大のトピックは、なんといっても教員採用試験でした。先輩のいない一期生にとっては、まさに手探りの試験勉強が続きました。その結果、合格率34%、延べ18名が合格することができました。また涙をのんだ学生たちも全員が希望して講師として教壇に立つことになり、その決意には感心させられました。さらに一般企業や公務員、大学院への進学など

学校教育学科 学科長・教授 岸田 幸弘

の進路を選んだ学生も、全員が就職先や進学先を決定することができました。

今後、教育学部の目指す方向は「真の人間力」をもった教員の育成と、教員採用試験の合格率の向上です。それは地域貢献という本学の理念をかなえることだと考えているからです。つまり「地域の学生が地域の松本大学で学んで地域の子供たちを教育する先生を育てたい」という願いからです。ですから教職を目指す高校生から選ばれる、魅力のある学部にならなければなりません。そのためには教育学部以外の学部の教職を目指す学生や、講師として教壇に立ちながら教員採用試験に臨んでいる卒業生などの支援にも努めていきたいと考えています。これが初めて卒業生を送り出す教育学部の今後への願いと決意です。





## 長野県小学校教諭に採用

宮澤 和可奈(長野県屋代高等学校 出身)

### | 在学中、印象に残っていること

2年次に経験したマルタ留学です。地元の小学校で行った授業実習で、子どもたちと意思が通じ合った時の感動や楽しそうに授業を聞いていた笑顔は今でも忘れません。

### | 大学で自分が成長したと思うところ

マツナビや地域づくり考房『ゆめ』の活動を通して、高校生や地域の方のお話を伺う機会が多くあり、自分になかった考えや価値観を持つ人との出会いから、学び得るものはとても多くありました。

### | 教員採用試験の勉強方法で工夫したこと

スマホのアプリを活用しながら、勉強時間を記録していました。やる気が出ない時は、友達とビデオ通話をしながらクイズ形式で問題を出し合ったりするなど自分にあった勉強方法を見つけ、継続しました。

### | 教育学部の魅力

先生方がとても魅力的です。学校現場の経験者として親身に相談にのっていただきました。教師を目指す学生にとって教員であり、目標とする先輩教師です。



## 長崎県小学校教諭に採用

中尾 ありさ(岐阜県立関高等学校 出身)

### | 在学中、印象に残っていること

教育実習では、毎日が学びで子どもたちから教えてもらうことも多くあり、とても充実していました。私の教師になりたいという意思をさらに後押しするものとなりました。

### | 大学に入って成長したと思うところ

自分のやりたいことに積極的に挑戦するようになりました。失敗は自分の成長につながると考え、どんな自分になりたいのか、どんな教師になりたいのかということ意識して行動してきました。

### | 先生や教職支援センターのサポートについて

教員採用試験前、個人的に面接対策をお願いしたところ、丁寧に指導してくださりとても心強かったです。教職支援センターの先生方には相談にも乗っていただき、合格の報告をした際には一緒に喜んでくれてとても嬉しかったです。



## 長野県特別支援学校教諭に採用

太田 美帆(長野県上田東高等学校 出身)

### | 在学中、印象に残っていること

小学校の実習で、初めて子供たちの前で授業をしたことは、大学で学んだことをより実践的に深められる貴重な経験となりました。子どもたちが最後にくれた手紙に「先生は絶対いい先生になれるよ」と書かれてあり、この子たちのためにも頑張る先生になろうと強く思いました。

### | 教員や教職支援センターのサポートについて

私は学部の中なかでも少ない特別支援学校枠を受験しました。先輩や頼れる人が少なく、試験対策の進め方に不安を感じる時もありましたが、特別支援用に面接対策を考えていただいたり、質問にも丁寧に回答していただきとても感謝しています。情報共有や対策講座の支援を強化していただけるとさらに充実した内容になると思います。

### | 大学で自分が成長したと思うところ

私は相手の意見を優先しすぎて自分の意見を人に伝えることができませんでした。自分が我慢すればうまくいくと思っていたからです。しかし、「子どもに発言してほしいなら自分も発言しなくては駄目だ」と先生からの言葉を受け、ゼミの話し合いでも積極的に発言するようになりました。そのおかげで、今では人前で自分の意見を発言できるようになりました。



## 塩尻市役所に内定

二木 誓也(松商学園高等学校 出身)

### | 就職先の志望動機

教員を目指して入学しましたが、教育実習期間の授業参観で、保護者の方とお話をする機会があり、子どもたちの笑顔には保護者の笑顔が必要だと感じ、市役所職員を志望しました。

### | 教育学部の魅力

1年次から学校現場に出る機会が多く、早い段階から学校の雰囲気や児童の様子、学校教諭の仕事などを学ぶことが出来ます。先生になるための資質を磨く講義が多いので教員を目指す人はもちろんですが、教員を目指さない人でも変わらず手厚いサポートが受けられるところも魅力の一つです。

### | 後輩たちへメッセージ

「大変」と聞いて何をイメージしますか?ツライ、キツイ、苦しいなど…。しかし、「大変」という字は「大きく変わる」と書きます。つまり、大変なことは今の自分をもう一歩先へ成長させてくれるものなのです。たくさんのことにチャレンジしてみてください。その経験は必ず自分を大きく変えてくれます。



## 上越教育大学大学院に進学

宮島 哲正(長野県篠ノ井高等学校 出身)

### | 教育学部一期生として

先輩がいなかったので、すべてが手探りで、自分たちで考えながら、一つ一つ実践していきました。その過程が他の何にも代えら

れない経験であり、自分の力になりました。

### | 大学院進学への志望動機

教育実習で、先生方の多様な学級経営のやり方を目の当たりにして、学級経営に強い興味を持ち、進学を決めました。大学院では、これまでの学びや経験をさらに深め、自分が目

指す教師になりたいと思っています。

### | 後輩たちへメッセージ

自分が将来どうなりたいかを、明確にしていってほしいと思います。大学生活の様々な経験を糧に、「なりたい自分」を見つけてください。「～したい、なりたい」というのは、最大の原動力です。

# 「松本大学教育実践改善賞」に県内教員3名が輝く!

全学教職センター長・教授 山崎 保寿

学校法人松商学園創立120周年を記念して創設した、長野県全体の教育振興を目的とした松本大学教育実践改善賞が3年目を迎えました。2020年度は、一般教員部門に13名、卒業生部門に5名、合計18名の応募がありました。厳正な審査を経て、一般教員部門の3名が本賞に輝きました。

受賞論文の内容は、小学校における20年以上にわたる水泳学習の指導に基づくシステムモデルの提案、新学習指導要領で求められるカリキュラムマネジメントを推進するための教科横断的学習モデルの提案、

養護学校において視覚支援と聴覚支援を組み合わせた授業改善に関する実践的研究でした。いずれも、教育実践の工夫と改善に優れ、長野県教育界への波及効果が大きい点が高く評価されました。

また、優れた論文の応募が多かったため、特別賞を11名に授与しました。本賞への応募が、長野県教員のさらなる意欲向上につながり、また、卒業生には教員として一層の力量向上を図るための目標になれば幸いです。

なお、今年度は新型コロナウイルスの影響により授賞式が開催できなかったため、受賞者3名からコメントをいただきました。

## 〈松本大学教育実践改善賞〉 ※掲載は受付順



■ 竹内 隆司さん (長野市立信更小学校教諭)

### 「小学校における水泳学習指導のシステムモデルについての提案」

この度の2020年度「松本大学教育実践改善賞」受賞を大変光栄に思います。今回、応募した論文は、学校現場におけるこれまでの体育実践から得た知見と実践の成果をまとめたものです。教職に就いて以来、どのように子

どもが運動学習をしたらよいかを探究してきました。その中で、運動に慣れ親しみながら、運動がわかり、できるようになり、存分にその楽しさが味わえるように体育指導に携わってきました。今回は私案ではありますが、小学校6年間の水泳指導の道筋をまとめることができました。このような機会を頂

戴しましたこと、心より感謝申し上げます。また、今回の論文が、実践家である学校現場の先生方の、水泳指導の参考に少しでもなれば幸いです。これからも、学習者である子どもたちの笑顔を求めて、教壇に立つ者として、よりよい学習指導・教育実践を心がけていきたいと思ひます。



■ 藤森 祐介さん (大町市立仁科台中学校教諭)

### 「いつでも、どこでも、だれでも実践できる教科横断的な学習—持続可能なカリキュラムマネジメントを推進するための教科横断的学習モデルの提案—」

この度は、名誉ある賞を頂きまして、誠に光栄に思います。この研究は、様々な研修、諸先輩方のご指導、同じ志をもつ仲間との対話、そして何より担任の生徒たちとの学び合いを形にしたものです。それ

がこのような形で評価を頂いたこと、本当にありがたく思います。この論文を支えてくださった全ての方に、そして研究のモチベーションであり続けてくれた私の家族に、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。この論文が、

地域の教育改善に、ひいては世の中を良くすることに少しでも貢献できるならば、一教員として、これにまさる喜びはありません。私自身、今後とも一層の研鑽に励み、目の前の子どもたちと共に、学び続けていきたいと思ひます。



■ 磯 愛香さん (長野県花田養護学校教諭)

### 「視覚支援と聴覚支援を組み合わせた授業改善」

この度は日々の実践を評価していただき、ありがとうございます。本校勤務も2年目となり、1年目に感じた肢体不自由児教育における難しさについて、どれか一つでも目に見える

形で改善案を試行することが一つの目標でした。今回は特に、大きな行事に絡む授業改善を行っているため、グループだけでなく部全体の行事予定が例年とは違ったものになりました。例年通りでないことには新たな労力が必要になりますが、私の提案を快く

受け入れてくださったグループ、部全体の先生方の協力が本実践の根底にあります。生徒にとって良いと思うことを柔軟に取り入れてくださる周りの先生方に感謝し、これからも授業改善に取り組んでいきたいと思ひます。

## 〈特別賞〉

### 一般教員部門 ※敬称略

■ 中山厚志 (小諸市立坂の上小学校教諭)  
「坂の上小学校 開花植物しらべ」

■ 秋山美津子 (安曇野市立三郷中学校養護教諭)  
「脳科学理論を活用した健康教育」

■ 二村 俊 (大町市立大町北小学校教諭)  
「アセスメントを介した支援の実践～音声付き教科書を活用した成果と課題～」

■ 小山正博 (大町市立大町東小学校教諭)  
「これからの運動会のあり方を考える」

■ 藤巻聡史 (松本市立波田小学校教諭)  
「社会科における対話活動の充実～物語り作文とICT機器を活用して～」

■ 松田文子 (安曇野市立豊科南小学校講師)  
「コロナ禍における院内学級の学習の在り方について」

■ 新井雅貴 (上田東高等学校講師)  
「民族音楽を題材とした鑑賞授業の実践」

■ 木田達也 (安曇野市立豊科南小学校教諭)  
「コロナ禍で見た課題『受動的な家庭学習』」

■ 横溝克彦 (上田高等学校教諭)  
「新CSにおいて、高校数学科では、どのような授業改善が求められているのか」

■ 丸山裕也 (飯田養護学校教諭)  
「知的障がいをもつ子どもを対象にした防災教育の在り方について」

### 卒業生部門

■ 浅見大輔 (諏訪実業高等学校教諭)  
「休講中におけるGoogle Classroomを活用した家庭学習支援の実践」



# 最高峰のB1リーグに挑戦!!

## — 信州ブレイブウォリアーズの栄養サポートを中心としたアカデミックサポートを展開 —

本学は、2018年1月から信州ブレイブウォリアーズと連携協定を締結して、する人(選手)、観る人(観戦客)、支える人(スポンサー企業)という3つのスポーツ参加の視点から、チームへの栄養サポートを展開してきました。

今年度は、日本プロバスケットボールリーグの最高峰であるB1リーグに挑戦するチャンスとともに、コロナ禍という不安を抱えて2020-2021シーズンインを迎えました。コロナ感染対策で不自由な部分もありますが、

チームや地域のスポンサー企業と打ち合わせを重ね、多くの支援を頂きながら選手の栄養サポートを行っています。その中でも大きな発展を遂げたものが、長野県を代表する企業でメインスポンサーであるホクト株式会社と連携した栄養サポート企画です。

この連携企画では、ホクト株式会社の「きのこの炊き込みご飯の素」や「きのこのレトルトカレー」を選手への補食サポートで活用するとともに、試合会場でも選手が食べている補食と全く同じも

健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之

のを観戦客も食べられるように同商品が販売されました。念願だった選手と観戦客の一体感ある栄養サポートをホクト株式会社の支援のもと実施できました。

これからもする人、観る人、支える人が揃った一体感のある「新しいスポーツを応援する形」を提案し続けたいと思います。シーズンは終盤を迎えますが、地域で生まれ、育ち、創設10周年を迎えた信州ブレイブウォリアーズの応援を引き続きよろしくお願ひします。



“松本大学 スポーツ栄養サポートチーム”のSNSで活動を発信しています!! フォローをお願いします。

 **Twitter (@MatsuSpoNutSap)**  
<https://twitter.com/MatsuSpoNutSap>

 **Instagram (matsu\_sportnutr\_team)**  
[https://www.instagram.com/matsu\\_sportnutr\\_team/](https://www.instagram.com/matsu_sportnutr_team/)



## 健康づくり活動の推進をめざして 研究討論会で成果を発表

2月10日、長野県健康福祉部健康増進課主催による「健康づくり研究討論会」が開催されました。この研究討論会は、県内各地で健康づくりに取り組んでいる関係者等が日頃の取り組みの成果や研究結果を発表し、意見交換を行うことにより、今後の健康づくり活動を一層推進することを目的としています。今年度はオンラインでの開催となりましたが、本学からは2名の教員・学生がそれぞれ取り組んだ研究について発表しました。

### 湯河原町高齢肥満者の生活習慣から

本研究は、高齢化率が非常に進んだ神奈川県湯河原町(高齢化率39.2%)における高齢者の肥満と生活習慣との関係性を明らかにするもので、同様に高齢化が進んでいる長野県の施策にいかす議論をしたいと考え今回発表しました。湯河原町の65歳以上高齢者462人のアンケートでは、家族と同居している世帯は70%を超え、BMI25以上の肥満群で「外食・中食をよくする」人はより肥満であり、「飲酒頻度が少ない」人は肥満が少ない結果となりました(重回帰分析)。同居家族がいることで食生活が共食となり肥満者の割合の低さとなって現れ、過度の飲酒が控えられている可能性が示唆されました。このように、高齢者は、家族や友人、近隣の人も含めた働きかけで孤立させないことが(肥満防止の面においても)重要です。2020年3月に健康栄養学科を卒業した頓所愛理さん、西澤優奈さん、藤森郁実さんが卒業研究として分析を担当し、慶応義塾大学医学部の渡辺賢治先生、東海大学医学部の渡邊良久先生が湯河原町でデータ収集を実施しました。発表はオンライン配信でしたが、本研究を広く知っていただく機会になれば幸いです。(健康科学研究科・健康栄養学科 教授 弘田 量二)



### 食生活を見つめ直して乳がん発症予防

「若い日本人女性に急増する乳がん発症を大学生の食生活意識調査から考える」という演題名で、管理栄養士の国家試験を控えた健康栄養学科4年生の牛山理央奈さんが発表をしました。健康栄養学科と松商短期大学部の学生を対象にウェブアンケートを実施したもので、乳がん発症予防にもつながる健康的な食生活に対する意識が、栄養を専門とする大学生においてさえ不十分であり、食品ラベルなどを利用した啓発活動の必要性を報告したものです。座長からの乳がん発症に対する食事の影響時期に関する質問やチャット機能を利用した食品ラベルと食育に関する質問にも簡潔に答え、本学における学生の研究活動を十分にアピールできたものと思います。



(健康科学研究科・健康栄養学科 教授 青木 雄次)

# 地域連携活動

## 最近の活動から

### 朝日村における観光まちづくりのこれからを考える

朝日村の産業振興課からお声がけをいただき、これからの観光の在り方について話し合う意見交換会を実施しました。意見交換会に参加したのは、総合経営学部専門科目「社会活動」にて、朝日村の調査や課題解決に向けた活動に取り組んできた学生たちです。あい



くコロナの感染拡大により、オンラインでの開催となりましたが、学生たちにとっても良い学びの機会となりました。朝日村には、高原野菜やカラマツを使った木工クラフトなど、魅力ある地域資源がありますが、それらの価値を如何に高めていくかが村でも課題になっており、朝日村第6次総合計画では「誰もが暮らしたくなる環境づくり」に果たしうる着地型観光への期待が語られています。そうした中で、今後の朝日村の観光の方針を検討する「観光ビジョン」を新たに策定することになり、若者の視点から意見を聴きたいということになったようです。検討会では、学生たちが感じてきた村の魅力やそれらをPRする方法など提言でき、関係者の方たちからも好意的に受け止めていただきました。

現在、学生たちは、朝日村での学びの成果を基に、村の魅力を発信する媒体(動画)作成に取り組んでいます。学生たちと地域の人たちの交流が、更なる学びの深まりと地域の活力を生み出すことにつながっていくことを期待しています。

(観光ホスピタリティ学科 専任講師 向井 健)

### 運動遊び支援 生坂村にて

生坂村児童館での運動遊び支援(通称「スポッチャおう」)に関わらせていただき、10年近くになります。この間、生坂村役場に就職した卒業生もいました。嬉しいことです。

本活動は、月に1回の年間を通しての活動で中島ゼミの4年生と3年生がチームを組んで運動遊びの支援をします。前期は4年生、後期は3年生が中心となり、実施しています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、日程がずれ込みました。児童館の館長さんが代わられ



たこともあり、7月に本学において3、4年のゼミ生と顔合わせをし、今年度の運営について話し合いをし、開始となりました。感染状況が12月に入り拡大傾向を見せたことにより、1月は中止となりましたが、2月、3月は、無事に実施しました。



この間、学生達は、子どもたちを楽しんでもらうためには、どうしたらよいかを考え、館長さんをはじめ、児童館の方々との連絡を取り合い、進めてきました。子どもたちと遊ぶだけであるならば、それほど難しいことではないでしょう。しかし、事前に達成目標を考え、支援案を作成し、実施後には、参加してくれた子どもたちに対する個別評価、気づきをまとめる作業をします。子どもたちと関わりながら、楽しさの中に支援することの難しさを感じ、悩む学生たちの姿もあります。また、関係するスタッフの方々とのやり取りの中で、成長してゆく学生たちの姿も感じます。「地域立大学」としての本学での学びの姿の一つがここにあります。受け入れてくださる地域の方々に感謝したいと思います。

(スポーツ健康学科 教授 中島 弘毅)



## 地域づくり考房『ゆめ』

### 地域づくり考房『ゆめ』 ONE TEAMプロジェクトを振り返る

今年度新たに企画した「ONE TEAMプロジェクト」は、学生が地域づくりの第一歩として、地域を知ることが目的に活動してきました。コロナ禍の中でしたが、地域の皆さまに受け入れていただき、学生も感染予防を徹底し、地域活動ができました。「ONE TEAMプロジェクト」を通して、『ゆめ』の活動がより充実したものになり、学生と地域とのつながりを持つことができ嬉しく思います。ここでは、地域で生きる人々から学んだこころに残った言葉をご紹介します。

（地域づくり考房『ゆめ』スタッフ一同）

#### 第1回 地域医療とは

「他人が決めた道より自分の決めた道で後悔をした方がいいですよ」

四賀の里クリニック 家田正寿先生

#### 第2回 地域資源の活用

「失敗しても軌道修正しながら取り組むことで成功につなげることが出来ます」 四賀梶原農園 梶原啓・知子夫妻

「地域づくりは、信頼関係を築くことと、自分事として考えることが大切です」

松本市社会福祉協議会  
四賀地区センター 花村一枝係長

#### 第6回 四賀地区の福祉行政を学び、支え合いの仕組みを知る

「今の学生たちは地域を見つめ現実をしっかり受け止め、人間力も付いており、近い将来、地域の担い手になることは間違いないと思う」

松本市前副市長 坪田明男さん

#### 第3回 企業と地域住民による地域づくり

「『ファーストペンギン』という言葉がある。挑戦する勇気が大切です」 「地域人口の減少と地域力はイコールではないんですよ」

四賀地区住民 佐々木清夫さん

「戦争など絶対にやってはいけない。問題点をみんなが同じ姿勢で考えなければいけない」 四賀地区住民 草間侃二さん

#### 第5回 いのちと平和を考える

「1日1日、人生の切符を大事に切る。今日は有効に切符が切れたか、明日はどう有効活用しようかと考えています」

四賀地区住民 中島学さん

#### 第4回 食といのちを考える

「いただきます、ごちそうさま」は、食事を作ってくれる人の時間もいただくということなんですよ」

長野県南安曇農業高校 小池晃先生



第4回「食といのちを考える」にて水の飲み比べ

地域づくり考房『ゆめ』のホームページを全面リニューアルしました！活動紹介などコンテンツを充実させ、情報発信していきたいと思えます。

<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>



## 地域健康支援ステーション

### 健康経営®セミナーを開催

### 県内企業経営者に健康経営の重要性と具体例を紹介

2月17日、連携協定を締結している大塚製薬株式会社と共催で、「健康経営®セミナー in 長野～健康経営®の制度とメリット～」を実施しました。オンライン形式で開催された本セミナーでは、健康経営を推奨している経済産業省ヘルスケア産業課の講演や、松本大学からは等々力賢治副学長による、本学が進めている健康経営の具体的な取り組みの報告がされ、県内の企業経



営者を中心に、およそ60名が参加されました。等々力副学長からは、地域健康支援ステーションが推進している運動促進プログラムであるTAGFITNESS®について、実際に得られた効果や実績を踏まえながら、紹介されました。また、「TAGFITNESS®によって、職場でのストレスの軽減や、従業員の運動への意識づけ、社内のコミュニケーション活性にもつながり、結果として医療費の削減にもつながる」と言及し、健康経営の重要性について熱心に語られました。この実績を踏まえた説得力のある講演に、セミナー参加者からは好評をいただきました。また、全国健康保険協会長野支部や長野県健康増進課、大塚製薬株式会社からも、健康経営に関する情報提供が行われ、今後の長野県内における健康経営の推進に貢献できる、貴重なセミナーとなりました。

（地域健康支援ステーション 健康運動指導士 近藤 壮太）

# 卒業研究・卒業論文発表会

今年度は新型コロナウイルスの影響を鑑み、密を避けての対応など例年とは異なる発表形式となりましたが、学生たちは、それぞれ積み重ねてきた研究の成果を発表しました。また、2017年度に開設した教育学部では、初めての発表会に卒業する一期生が臨みました。

## 総合経営学部 総合経営学科

### 多様なテーマが並んだ卒業研究

総合経営学科・教授 小林 俊一

総合経営学科では、今年度五つのゼミの卒業研究がありました。卒業研究の授業は、対面で教員から指導を直接受けられるところに、学生にとっての価値が感じられる部分も多いと思いますが、一部は、オンライン形式での実施となりました。しかし、このような状況の中でも、Microsoft teamsなどを上手く活用することにより、総合経営学科らしい素晴らしい卒業論文を書き上げることができました。卒論を書いた47名の学生のテーマは、地域活性化、地方創生、経営、経済、マーケティング、情報など様々な分野でした。今年度の発表会は、各ゼミで個別に行うこととしました。例えば、清水ゼミでは、2015年度より松本大学×「道の駅」中条×国土交通省の連携企画「88(やまんばん)プロジェクト」を実行し、それに関連した研究を行い、下の写真のような素晴らしい発表会を実施しました。



氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
太田このみ	清水	持続可能な「道の駅」中条の展望
日下 佑也	清水	イベントを通じた地域活性化
花岡 拓	清水	地域活性化におけるキャラクターの運用と認知度向上の考察
平丸 奨真	清水	地方創生を支える破壊的イノベーション
垂見 亘	葛西	EC企業の差別化戦略に関する比較研究 —Amazon、楽天、ヨドバシカメラを例として—
小林 美菜	葛西	長野県の動きやすい企業モデル
中村 希	葛西	「働きがいきざしアドバンスカンパニー」認証企業の取り組みを通して—
原 慎太郎	葛西	トヨタ生産システムと開発方式
内山 凌	葛西	コーヒーチェーンの経営戦略に関する比較研究 —スターバックス、ドトールコーヒー、上島珈琲を例として—
濱 晴樹	葛西	プラットフォーム戦略の重要性と特長に関する一考察
小林 拓巳	葛西	ラグジュアリーブランドのブランド価値に関する研究 —ルイ・ヴィトンとシャネルをモデルとして—
青木 大典	兼村	中小企業における「人材活用」～技能実習制度による外国人の活躍～
大峽 諒也	兼村	レイト&株式会社～社員が多角的なメンバー～女性の活用と人材育成～
北澤 翔光	兼村	障害者について日本と北欧との違い
北澤 匠海	兼村	お金のつかない福利厚生
村田 聖斗	兼村	技能実習制度を活用するメリット、デメリットについて
松本 将	室谷	「アニメツーリズム」による発展効果とファンの気持ち
市川 拓人	室谷	産業連関表による経済波及効果の評価
垣崎 拓巳	室谷	QGISを使ったCS立体図の作成
金森 幹	室谷	2020年東京都知事選挙に関するTwitterの分析とテキストマイニング
菊池 幸平	室谷	各時代に生み出された自動車のスポーツエンジンについて
小林 亮介	室谷	WRG(世界ラリー選手権)の参戦状況からみた自動車メーカーの経営分析
関根 祐人	室谷	Twitterの収集分析～ハロウィンバージョン～
武 晋平	室谷	「コロナ禍のコンテンツスイッチ」～品薄の原因はコロナか～
根岸 大輝	室谷	火災と気象の関係性
藤田 千聖	室谷	公立図書館の分類別蔵書分析
二木 麻友	室谷	財務諸表を用いた比較分析
宮木 楓	室谷	コロナ禍におけるアミューズメント事業の稼働と売上
横矢 宇博	小林	損小利大で簡単に戦う株式投資
佐久間隼也	小林	5日、7日、10日の移動平均線を用いた株式の売買
浅川 尚大	小林	5日移動平均線のみを用いた株式投資への影響
上條 匠	小林	株式チャートの「ものわかり」について

## 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科

### 制約された条件下で取り組んだ研究発表

全学教務委員長・観光ホスピタリティ学科・教授 畑井 治文

今年度、観光ホスピタリティ学科では、5つの研究室から合計18本の卒業研究が提出されました。この1年間、コロナ禍の影響のため、研究活動も地域活動も円滑に進めることは非常に難しかったと思います。そのような制約された条件下にも関わらず、観光、地域振興、福祉社会デザイン、地域防災という観光ホスピタリティ学科の学びの4本柱を踏まえながら、例年以上に興味深い研究テーマが設定されていたように思います。



今回、残念ながら、総合経営学部では新型コロナの感染状況を鑑み、対面・集合形式での卒業研究発表会の開催は見送られることとなりました。その代替手段として、研究室単位での小規模発表会、複数の研究室合同でのオンライン形式の発表会、地域の方々にも開かれたオンライン形式の発表会など、それぞれが創意工夫をしながら、大学での学びの集大成を披露する場を設けました。卒業研究に挑戦した4年生は、この過程

で培った論理的思考力を活かしながら、卒業後、さまざまな場所で活躍してくれることと期待しています。

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
中山 楓斗	山根	上田市観光戦略の提言
内田 晟哉	山根	安曇野市における観光振興策
小林 紗雪	山根	温泉地活性化への提言
森川 真由	山根	松本市内の温泉における泉質に着目した湯巡りの提案
荒井 瑠	山根	武道ツーリズムへの提言
田中 裕人	山根	私鉄ローカル線活性化への提言
伊藤 佑介	益山	GoToトラベルに関する若者の意識調査
関 康平	益山	益山で食の魅力を高めるために～若者の食の意識調査と益山の観光を中心に～
上條 晴子	益山	益山で食の魅力を高めるために～若者の食の意識調査と益山の観光を中心に～
青木 康平	白戸	地域における情報発信の課題と可能性～発信媒体と魅力的な内容およびその効果について～
大塚 里紗	白戸	地域における情報発信の課題と可能性～発信媒体と魅力的な内容およびその効果について～
木村 彪雅	白戸	地域における情報発信の課題と可能性～発信媒体と魅力的な内容およびその効果について～
小林 茉結穂	白戸	地域における情報発信の課題と可能性～発信媒体と魅力的な内容およびその効果について～
中村 吏孔	白戸	地域における情報発信の課題と可能性～発信媒体と魅力的な内容およびその効果について～
増澤 宏	白戸	地域における情報発信の課題と可能性～発信媒体と魅力的な内容およびその効果について～
遠藤 芽香	畑井	人間関係が影響を与える「まちの存続」に関する研究
榎石 陽介	畑井	人間関係が影響を与える「まちの存続」に関する研究
岡本 真奈	畑井	住民の地域活動への参加に関する研究
有賀 詩織	今村	セクシュアルマイノリティの人たちが暮らしやすくなるために
石田 直輝	今村	うつ病の男女差とそれに対する若年層の認識
小泊 将也	今村	芸術と障害の紐付けによる障害者への印象の変化について
柴田 文	今村	不登校時の対象別アプローチ
松澤 郁己	今村	無縁社会における地域防災の在り方
丸山 輝	今村	親への愛着と学校適応感の自己肯定感との関連性について
望月 翔汰	今村	現代社会における「子どもの居場所」の在り方
若林 えり	今村	ホームレスの人材活用～就労面から～



## 本年度も盛況な卒業研究発表会 内容の深い研究に活発な論議

健康栄養学科教務委員・専任講師 成瀬 祐子

2020年度健康栄養学科卒業研究発表会が12月19日に開催され、口頭で14題、ポスターで34題の発表が行われました。本年は、口頭発表は2会場をリモートで繋ぎ、ポスター発表は例年2会場のところを3会場に増やして実施しました。コロナ禍で、フィールドに出ることはおろか、前期は大学への通学にも様々な制限がある中で卒業研究を進めることは、大変な苦労があり、本来取り組みたかった活動や研究ができなかったという話も聞きました。しかし、発表会では、内容の深い研究が数多く発表され、教員や後輩たちとの議論も活発に交



わされていました。研究を発表し、質問に答える学生たちの姿はとても誇らしげで、無事に開催できて本当に良かったと感じました。まだ解答のない課題に取り組み、自分なりの解答を導き出し、それを論文にまとめ、発表する。その一連の過程で身に着けた力が、社会で活躍するための一助となることを願っています。

### ■口頭発表の内容

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
小池結莉乃 小坂 汐音	弘田	寝衣が睡眠に与える影響
荒木 麻緒	長谷川	運動習慣のある学童及び生徒における初経初来の実態調査
須澤 未奈 丸山 結花	成瀬	女子大学生における食に対する意識と体型認識について
小野 郁美 齊藤可奈子	石原	揚げ物調理中の音測定による揚げ上がり指標の確立～食材による違いの検討～
河合 京香 鶴田 和海	沖嶋	リンゴPFAS主要アレルゲンコンポーネントMal d 1のELISAによる定量
阿部 彩夏 小林 夏葉	藤岡	家族との食事の頻度と過体重に関連性はあるか—Meta-Analysis—
上條ひとみ 盛田美紗妃	木藤	種々の食品中での <i>Lactobacillus sakei</i> の増殖
佐野 陽菜	福島	遺伝子組み換え食品が与える社会への影響
関 桃花 横井 彩乃	矢内	機能性表示食品の作り方と商品開発(唐揚げ)
神農 流菜 草苧 美里	山田	cAMP シグナル系によるマウス ZHX2 遺伝子の細胞特異的発現調節機構の解析
海川 純菜 宮本 奈奈	高木	Iberin による糖新生系酵素 <i>PEPCK</i> 遺伝子の発現調節機構の解析
中垣内貴之	廣田	食事に関する媒体提供による高校生の食意識の変化～アプローチの違いに着目して～
川瀬あすか	平田	簡易測定器によるもり蕎麦摂取時の食塩摂取量
徳嵩 七海 松林 京香	青木	日本人の若い女性に急増する乳がんを食習慣の視点で考察する

## 4年間の学びの集大成 幅広いテーマの研究内容

スポーツ健康学科教務委員・専任講師 伊藤 真之助

2020年度スポーツ健康学科卒業研究発表会は12月20日に開催され、12題の口頭発表、83題のポスター発表が行われました。口頭発表は、例年よりも発表数を減少し、1ゼミ1名の発表者数で6名ずつのグループとなり、発表時間は1人7分、質疑応答は15分という時間で行われました。発表会への参加は教職員、4年生と3年生に限定し、2つの教室に分散して実施しました。発表会場とその映像や音声を隣の教室に分散中継して行われた発表会は、右表の口頭発表題目の通り、幅広いテーマによる研究内容となっており、たくさんの学生からの質問も出され、活発な議論が行われました。

パネルの間隔を例年よりも大きく離れたポスター発表では、発表者は自分自身の研究を熱心に説明し、たくさんの質問が出てくる中でどのように説明したら伝わりやすいかという工夫が見られました。3年生は口頭発表の座長やタイムキーパー、受付やマイク係、会場設営などの多くの仕事に一生懸命取り組んでくれていました。

例年とは違い様々な懸念がされる中、創意工夫が必要であった発表会でしたが、4年間の集大成である卒業研究発表を通じて経験した“自分の考えをまとめ、相手に伝える”という努力は、これから先の様々な場面で生きてくると思います。この経験を活かし社会でたくさんの活躍をしてほしいと思います。



### ■口頭発表の内容

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
金澤 夏未	等々力	Bリーグによる地域活性化の取り組み—信州ブレイブウォリアーズを例に—
高橋 一真	根本	走行中におけるマスク着用の有無が身体に及ぼす影響
有賀 海港	中島(弘)	硬式野球部員を対象としたボール落下位置予測に関する検討
山崎 永和	齊藤	サッカー選手を対象とした“根性”に関する統計的分析
小林 与毅	河野	前庭破壊を行ったラットのヒラメ筋における慢性運動の影響
小松 晃人	山本	陸上長距離選手における1500m走速度と体幹筋力との関連
渡辺 南都	小松	「働き方改革」と「部活動のガイドライン」について～政策と現場の教職員や生徒の考えの違いに着目して～
二本松明健	丸山	紫外線の年変化・日変化と人への影響
高波 舞	岩間	指導死の現状と生徒指導の在り方についての検討
甲田のどか	新井	学校教育におけるジェンダー再生産—中学道徳教科書の分析から—
齊藤 佑紀	田邊	健康増進施設、ショッピングセンターでの健康増進活動が健康格差に及ぼす影響について
小尾 優佳	中島(節)	ペットが家族コミュニケーションに及ぼす影響

教育学部 学校教育学科

教育学部初めての卒業論文発表会が開催  
—力作ぞろい—

学校教育学科教務委員・准教授 國府田 祐子

2月5日に、教育学部初となる卒業生が卒業論文発表会を行いました。当初は、全員が発表(口頭発表、ポスター発表)を予定していましたが、感染症予防対策の視点から縮小化し、オンラインにて3分科会に分かれ口頭発表のみ開催しました。

発表者は全12ゼミナールから代表が一人出ました。教育学部生は全員が一人一本卒業論文を執筆し12月に提出しています。3、4年生はリアルタイムで参加し、1、2年生は後日、録画等で視聴する予定です。

教育学部のカリキュラムでは専門ゼミナールの開始は2年生の後期で、じっくりと基礎から学びます。論文提出まで約2年半ありますが、その間、教育実習などで中断することも多く、研究を継続させるにはどの学生も苦労したようです。先輩のモデルがない中で、よく全

員が執筆できたと思います。

当日は、質疑応答も活発でした。3年生から多く出た質問はテーマ設定の理由、アンケート項目の立て方などでした。3年生が現在の自分の課題を



解決しようと、発表会から自分へ生かす真剣な学びがうかがえました。

来年度は当初予定していた形式での卒業論文発表会が行われることを心から願います。4年生のみなさんは、論文執筆を通して獲得した問う力、課題発見力や解決する力、判断力や表現力をそれぞれので大いに発揮してください。

■発表者一覧

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
太田 美帆	今泉	教師になるにあたっての不安
古川 智嗣	小林	障がい児のバランス能力に関する一考察
坂詰 仁美	大蔵	地域と関わりのある放課後児童クラブの在り方に関する研究
中尾ありさ	濱田	子どもの主体性を促す運動会についての提案
田内はるか	澤柿	小学校教員免許取得を目指す大学生の理科教育に対する意識調査とその支援
岩本 圭太	増田	ゆめのはじまりは温故と知新の交差点
吉田 有志	佐藤	割合の学習指導に関する研究
宮入 永佳	秋田	シミュレーションを用いて課題を自分事として捉えさせる小学校社会科授業
近江 立樹	川島	習熟度別指導が自己肯定感に及ぼす影響について
藤原 優希	羽田	校則は何のために、誰のためにあるのか
大久保詞織	岸田	学校給食と学校生活満足度に関する関係性の検討
松本 紗奈	守	外国人ステレオタイプの心理実験による検証



松商短期大学部

今年度も多岐にわたる研究テーマ  
7つのゼミが発表

松商短期大学部教務委員会主任・教授 矢野口 聡

1月20日、2年生の卒業研究の成果を発表する「卒業研究発表会」が1年生向けにオンラインシステムにて開催されました。松本市の新型コロナウイルス感染警戒レベルが5に上がり登校すら憚らない状況となる中での開催となりましたが、7つのゼミが発表に臨んでくれました。発表者の多くは学内のスタジオ教室からのオンライン生配信を選択し、当日は1時間程前からリハーサルと機器の動作確認



を入念に行っていました。一方、学外から配信を行った発表者の中には、システムの不具合で時間内に発表ができず翌週の1年生オリエンテーションの時間に振り替えるというケースが発生し残念でした。

今年度も発表テーマは多岐にわたっていましたが、中でも飯塚ゼミの忠地寿美礼さんは「コロナ禍におけるマスクとメイクについて」というテーマを取り上げて、ピンチをチャンスにとらえる前向きな内容が印象的でした。各発表者のテーマやプレゼンの仕方などについて評価する1年生のアンケートはWebシステム上で行いました。オンラインという制約の中、発表内容が上手く伝わったかがかりではありますが、1年生にはこれを機に来年度の卒業研究に向けテーマなどについて考えることを望みたいです。

■発表者一覧

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
忠地寿美礼	飯塚	コロナ禍におけるマスクとメイクについて
征矢 侑子	飯塚	挑戦し続けるジブリの戦略
酒井 亜美 小林美沙希 ダシルパトリサ 吉原 端穂	中村	ディズニー映画におけるグローバル化 ～セリフに注目して
犬飼 風馬 岩淵 柊 瀧澤 海翔	矢野口	Scratchを使ったゲームプログラム制作
涌井 美羽	伊東	広報誌から広がる世界 ～映えて 食べて 知った～
下田真里子 竹内 菜緒 酒井 菜摘	廣瀬	ステッキのオリジナルデザイン ～世界に一つだけの杖～
濱崎真也子	糸井	外国人観光客から見た日本のおもてなし



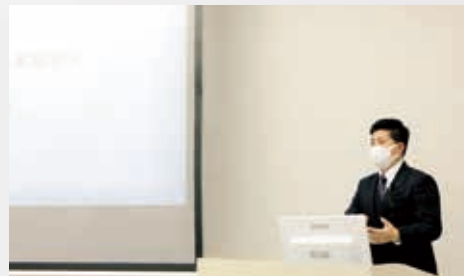
# 大学院修士論文審査発表会

## 大学院3名論文発表 思いとこだわりをもった研究成果を堂々と

健康科学研究科教務主任・准教授 齊藤 茂

2月16日、大学院健康科学研究科の修士論文審査発表会が開催され、3名が発表を行いました。それぞれから自らの研究に対する“思い”が伝わってくる、個性的ですばらしい発表でした。審査の結果、全員が修了生として承認されました。また、私事で恐縮ですが、初めて担当した院生2名を無事に送り出すことができました。この1年間、フィールド調査を主とする我々の研究活動は多大な制約を受けましたが、彼らは最後までこだわりをもってやり遂げてくれました。

大学院で培った思いを大切に、それぞれの道を歩んでいってほしいと思います。



発表者	論文タイトル	
坂本 悠馬	本邦におけるアスリートへの心理サポートに関する実態調査	The Actual study of Psychological Support for Athletes in Japan
水島 優	知的障害者スポーツの指導に関する研究	The Study of Sport Coaching for People with Intellectual Disabilities
内山 菜南	骨格筋の絶食応答におけるGPT2の役割	Role of glutamate pyruvate transferase 2 for the fasting response of slow- and fast-twitch skeletal muscles in rodents

## 一人ひとりの目標の実現をめざして 就職支援の取り組みから

### キャリアセンター初の試み 採用担当者を対象にセミナーを開催

キャリアセンターが初めて企画した「松本大学キャリアセミナー」を12月10日に開催しました。企業の採用担当者を対象にオンラインでの開催となりましたが、65社、約80名の方々にご参加いただきました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生たちの就職意識や採用活動にも大きな変化をもたらされているなか、本学の2021年、2022年度卒業予定の学生を対象としたアンケート結果を踏まえて企業の方々へ採用活動に関する情報を提供しま



した。また、近年大学を取り巻く環境も大きく変化しており、本セミナーでは大学教育改革からみた人材育成や長野県出身者、Uターン学生の動向についても触れ、地域が抱える少子高齢化・人口減少・一極集中などの諸問題についても正面から向き合い、地方で生まれ育った若者を地域で育成し、就職させ、地域で活躍してもらうことを旨として、若年代の「出生地定着増の促進」に貢献する本学の役割について改めてご理解いただけたと思います。

将来の見通しが立たない、予測困難な時代ではありますが、キャリアセンターでは、企業の方々にもご協力いただきながら、この地域の未来のための「人材育成」につとめてまいります。

### 創意工夫を凝らした 対面しながらの企業説明会

2月19日、20日、22日、24日の4日間にかけて、キャリアセンター主催のWEB合同企業説明会を開催しました。本来であれば、事

キャリアセンター 係長 上條 直哉



学部4年生、短大2年生のサポートで  
当日の進行もスムーズに

業所と学生が直接対話する機会として準備をさせていただくのですが、今回はzoomを使ったオンラインで開催しました。4日間で計96社の事業所にご参画いただき、本学からも対象学生の80%にあたる約500名が参加しました。

オンラインでの開催となりましたが、1回あたりの人数制限を設け、対面に近い双方向の説明会となるよう工夫し、事業所と学生の双方に満足していただけるイベントになりました。今後も3月16日、4月24日に開催を予定しています。

# 松本市地域づくりインターンに聞く

2015年度より松本市の“地域づくりインターンシップ戦略事業”は、若者が地域活動や地域づくりにかかわることによる、地域活性化や人材育成、若者の地域定着を目的としています。本学からは、地域総合センター特別調査・研究員の本学卒業生が地域づくりインターンとして、本学教員の専門教育を受けながら活動するものです。現在まで1~3期生は3年間の任期を終え、それぞれが新たな地で活躍しており、この3月には4期生が

任期終了を迎え、5期生は引き続き市内で活動していきます。

「地域の若者を受け入れ、地域に貢献できる人材を育て、地域に還元する」という本学の教育理念は、地域づくりインターン制度を通して実現してきています。松本市内の各地区に新たな風を吹き込んでくれたインターンのこれまでの活動内容と現在の様子をご紹介します。



## 松本へ定住

### 1期生 鎌田地区担当(2015年度~2017年度)

松本市役所 地域づくり課勤務 塚原 有香さん  
〔観光ホスピタリティ学科 2015年3月卒業〕

前例が無いため不安や悩んだ時期もありましたが、地域の方との関わりや様々な経験を通して、人として成長でき自信につながりました。活動の中で特に印象的



お宝発表の様子

だったことは、地域の宝(地域資源)を知ってもらうこと、活用方法を考えるためお宝発掘事業をしたことです。地域の方や職員の方にご協力いただき、3年間形を変えながらも続けられたことにやりがいを感じました。また、地区の活動以外にも大学でのCBI講座(コミュニティビジネスイノベーター講座)では、地域課題や資源の分析、コミュニティビジネスのモデル構築に向けて調査・研究なども行いました。現在は松本市役所地域づくり課に配属され、地域の方と関わる機会も多いので少なからず

#### 主な活動内容

地区事業や会議への出席、お宝発掘事業、できることまちよりワークショップの開催 等

当時の経験を活かしているのではないかと思います。

## 松本から出身地へ

### 3期生 中山・新村地区担当(2017年度~2019年度)

しもすわ今昔館 おいでや勤務 北原 保奈美さん  
〔観光ホスピタリティ学科 2012年3月卒業〕

将来は地元地域に関わる仕事がしたいと考えていたので、地域づくりについて学び、広い視野で地域と関わっていったらと思いインターンとしての活動を決めました。新しく何かを始めることに最初は難色を示していた住民の方から前向きな意見が聞けるようになった時は、諦めずに向き合い続けて良かったと思いました。私の任期終了後も、住民の皆さんで活動を継続してくれていると聞いた時はとても



地区住民との意見交換会

嬉しかったです。現在の勤務先は下諏訪温泉の旅館が立ち並ぶところにあり、観光客や地元の方が多く立ち寄ります。インターンでの経験を地元の地域活性化のために活かしていきたいと思っています。

#### 主な活動内容

中山地区…住民同士との意見交換会や地域資源を活用したイベント企画  
新村地区…防災への取り組み、高齢者の生活支援 等

## 松本から出身地へ

### 4期生 中央地区担当(2018年度~2020年度)

飯田商工会議所(2021年4月より勤務) 正木 輝さん  
〔観光ホスピタリティ学科 2018年3月卒業〕

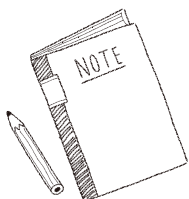
大学で学んだファシリテートの能力は非常に役立ち、地域課題も見方を変えれば貴重な地域資源であるという物事の捉え方や見方も、インターンの活動をしていく中で大変参考になりました。



史談会を開催

地域の方に名前を覚えて貰えた時が一番達成感を感じました。親交を重ねることで、地域の一員になれたことが嬉しくとても印象に残っています。

大きな変革期を迎えている故郷のために、松本大学での学びやインターンでの経験を十分に発揮して、経済とまちの発展に寄与したいと思います。



#### 主な活動内容

買い物困難者へ向けた買い物支援市、古写真を用いて高齢者の生きがいづくり 等

## 松本へ定住

### 5期生 入山辺地区担当(2019年度~活動中)

平林 洸さん

〔総合経営学科 2019年3月卒業〕

在学中に地域と関わる活動をしていく中で、先生に卒業後も地域で活動ができるこのインターンを紹介していただきました。現在は、少子高齢化や過疎化の進む中山間地域の地域課題解決について取り組んでいます。趣味で取得した狩猟免許と猟銃の所持許可は、活動の一つである「若者が地域で活躍できる場づくり」でも活用しており、シカやイノシシなどの有害鳥獣を捕獲する捕獲実施隊員にもなっています。今後は入山辺地区への移住希望者に向け



上土町で農産物直売

て、受け入れの場づくりに取り組んでいきたいと考えています。また、自分自身もこの春より入山辺地区の住人として、地域と関わり合いながら引き続き活動していきたいと思っています。

#### 主な活動内容

入山辺地区の将来ビジョンを考える会(愛称ごんな山辺にするじゃん会)への参画、中山間地域における猟友会を通じた若者の勧誘、地域資源の発掘 等



# 研究室紹介

健康栄養学科・准教授  
矢内 和博

## 商品開発から見た 地域課題と大学の役割

6次産業化推進事業を手掛けることを機に「松本大学地域活性化モデル」を構築し、本学の地域貢献を自分なりに見直し、その役割を明確化するための方向性を見出してきました。

信州といえば、日本全国から注目される県であり、なかでも軽井沢、安曇野の地名は全国区です。ここには、自然、食文化、歴史、生産業など多くの魅力や学びがあります。信州産の品物は首都圏では付加価値が高く、それらが多くの観光客の誘致につながっています。海産物以外は、ほとんどの物が信州産で用意できます。しかも飛び切り美味しいのです。しかし、その反面、農協出荷と観光客への依存度が高く、6次産業化の本当の目的を達成できていない現状があります。1次産業(生産)、2次産業(製造)、3次作業(流通サービス)と足しても掛けても6になるから6次産業といえます。それぞれの産業分野が独自に動き、利益を得て安定していましたが、その陰に多くの無駄、廃棄、ロスがありました。そこで、食品素材の有効活用という、最も面白い分野に着目し、何とかしようという役割を担ったのが松本大学であり、これが私の使命と感じています。その中で多くの企業、行政、生産者との連携を拡大し、情報の共有や、事業者同士をつなげて、よりスピーディーにモノづくり

を行う仕組みが動き出してきました。今後の課題は、日本の食料自給率を100%に近づけることです。そのためには、生産者の所得が向上する仕組み、すなわち、その生産物から魅力的な商品を開発して、世界中から日本の食を再認知してもらえたらいいと思っています。まずは、食から。お財布のひもが緩むような魅力的な商品開発のプロデュースを今後も進めてきたいと考えています。



【経歴】岩手大学大学院連合農学研究科修了(農学博士)。静岡県の食品メーカーを経て現職。【専門分野】食品開発及び機能性食品の研究開発に関する実務、地場産品の新規及び高次利用法の開発【研究課題】信州の食材をテーマとした素材開発/商品開発などのコーディネート/農作物の栽培指導/企業への食品加工の技術指導/養護学校の就労支援として農業や食品加工の指導 等

### はちの子といなごの粉末を使った新しいお菓子

矢内研究室とあづみ野食品で「はちの子パイまんじゅう」「いなごおかし」を共同開発しました。県内高速道路のサービスエリアやパーキングエリアで販売中です。インパクトのあるパッケージにもご注目ください。



# News & Topics

## 卒業生の門出を祝して テスコム電機からヘアドライヤーの寄贈

松本市内に生産拠点をもつ小型家電メーカーのテスコム電機株式会社(本社・東京都)より2020年度卒業生全員に、ヘアドライヤーを寄贈いただきました。商品の研究とリサーチで本学学生が協力した経緯もあり、「コロナ禍で大変な最終学年を過ご

した卒業生に役立てていただければ」と企画いただきました。苦難を乗り越えて迎えた晴れの舞台でエールを送っていただき、学生たちにとって大きなプレゼントになりました。今回のお申し出に心から感謝申し上げます。



## 同窓会から500万円の寄付 大学院博士課程の発展のために

2021年4月からの大学院健康科学研究科博士課程の発足に当たり、松本大学同窓会から500万円の寄付をいただきました。昨年10月、文部科学省から博士課程の設置認可を受けたもので、新年度からは、既存の健康科学研究科修士課程が博士課程に衣替えし、博士前期課程と博士後期課程で構成することになります。

菅谷昭学長は今回の寄付に対して「さらに高度な教育研究活動を推進するための環境整備に有効に使わせていただきます。」とし、1月25日、小島同窓会長に感謝状を渡しました。



同研究科は2011年4月、修士課程としてスタートし9年が経過しました。これまでに人間健康学部の卒業生に加え、専門職にある多くの社会人を受け入れ、研究者の養成とともに、「社会人リカレント大学院」としての役割も担っています。(事務局長 柴田幸一)

## 本学学生がゾンタ修学支援生として認定される

この度、小澤歩さん(観光ホスピタリティ学科3年)がゾンタ修学支援生として認められ、2月12日に本学で贈呈式が行われました。日々の堅実な学びと松本ユース平和ネットワーク(松本市)での活動が評価されたものです。

ゾンタクラブ[Zonta]とは、1919年米国のパフファローでビジネスや専門職のリーダーと認められる女性たちから成るものから生まれた世界組織の団体で、松本エリアにもクラブが組織され25年が経過します。

ゾンタクラブのきまりの一

つに、「自己の仕事に誇りを持ち、それを奉仕の機会と確信する」とあります。今年は特にコロナ禍において様々な苦難を私たちは経験することになりました。そのような中においても世代を超えた支援が脈々と実行されていることに大きな意味を感じざるを得ません。

(観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸)



## スキー部

### スノーボード・ハーフパイプ 今井胡桃さん 冬季Xゲームで昨年大会に続き好成績 世界選手権の代表にも選出

1月30日に米コロラド州アスペンで開催された冬季Xゲーム、スノーボードのハーフパイプ女子で、今井胡桃さん(スポーツ健康学科3年)が4位となりました。今井さんは、3月に同地で開催される世界選手権の代表にも選出されています。

#### 卒業生の杉本幸祐さん W杯で4位

また、2月5日、米ユタ州ディアパレーで開催されたフリースタイルスキーのW杯、

モーグル第5戦で、卒業生の杉本幸祐さん(2017年3月卒業)が日本勢最高の4位に入りました。杉本さんも、3月にアルマトイ=カザフスタンで開催される世界選手権の代表にも選出されています。なお、杉本さんは株式会社デイリーはやしや(松本市和田)にアスリート社員として勤務し、卒業後も競技を継続しています。

両名に加え、アルペンスキー全日本学生

選手権優勝の前田知沙樹さん(スポーツ健康学科4年)や、フリースタイルスキー・モーグルの荻原和さん(スポーツ健康学科4年)も来シーズンの北京五輪出場を目指しており、平昌五輪に出場した岩渕香里さん(2016年3月卒業/北野建設)に続く、本学出身のオリンピックの輩出が期待されます。みんな、頑張れ!!

(スキー部 部長 齊藤 茂)



今井胡桃さん



杉本幸祐さん



前田知沙樹さん

## 国際交流クラブ

### オンライン交流で繋がる世界

新型コロナウイルス流行の影響でキャンパス活動が色々制限されるなか、クラブ活



交流会中の台湾義守大学側の様子

動も例外ではありません。「国際交流クラブ」は外国人留学生と日本人学生の交流活動が主な活動ですが、毎年松本大学に10人余やってきた交換留学生も来られなくなり、正規留学生の数も減少してしまいました。これでは交流活動ができません。そこで、考えたのが提携校とのオンライン交流会でした。2020年11月から、月1回、1時間程、韓国の東新大学、台湾の義守大学とZoomで交流しています。双方の大学の紹介、大学近辺の街の紹介から始まり、アルバイト、クラブ活動などを紹介しました。交流を始めた頃はお互いにおま

り質問もでなくて、ちょっとごちない交流会でしたが、会を重ねるたびに、活発に質問が飛び交うようになり、笑い声も増え、和やかな交流会となってきました。日本にしながら、世界の人と繋がるオンライン交流は、コロナが収束しても続けていきたいと思っています。

(国際交流クラブ 部長 中村 純子)



義守大学による台湾「正月」の紹介

## アンサンブルsolae

### 工夫を織り交ぜたステージ 第2回定期演奏会を開催

アンサンブルsolaeは2月28日に、松本市音楽文化ホール小ホールにて第2回定期演奏会を開催しました。1年生から4年生まで20名の部員がステージに立ち、3ステージ13曲の公演を行いました。練習時間をしっかりと確保することも難しいなかではありましたが、合唱や楽器演奏、語りなどを織り交ぜて工夫して作ったステージを、保護者や地域の皆様にお聞かせすることができました。新型コロナウイルス感染症拡大のため当初の予定から3カ月延期しての開催となりましたが、感染症対策を取りつつお客様の前で演奏をすることができ、うれしく思います。今後ともご声援よろしくお願ひします。(アンサンブルsolae 部長 大蔵 真由美)





# 退職のあいさつ

## 本を読む・旅をする・友達をつくる

教育学部長 教授 川島 一夫



私は今年度で長かった大学生生活を終えますが、一言。大学での学びは授業や教科書を通して学ぶだけではありません。学んだことを基礎にして「行動」「考える」ことです。大学生生活を充実するためにできることは3つあります。まず「本を読むこと」次が「旅をすること」三番目に「友達を作り、話をする」ことです。これらはすべて、視野を広げるということで自分を高めることにつながります。ありがとうございました。

## 教職員の皆様方に感謝

学校教育学科 教授 今泉 博



4年間の勤務もあっという間でした。教育や授業の本質的なことについて、学生と議論し深め合ったことが思い出です。教育学部の1期生が、今後現場でどう実践し、活躍されるかが楽しみです。教育学部の先生方にはさまざまな形で支えていただき、楽しく過ごすことができました。深く感謝申し上げます。事務職の皆様方には、困ったことがあると、懇切・丁寧にご対応いただきました。心からお礼を申し上げます。来年度は非常勤としてお世話になります。

## 松本の四季景色を いとのおしみ愛でる日々

学校教育学科 教授 増田 吉史



気候のいい日は徒歩通勤に切り替える。75分の道程でほとんど人と行き交わない。松本の美しい景色を独り占めだ。教育一筋にやってきた集大成をここ松本大学で過ごすことができた。素敵な学生達と、親切な職員、すばらしい教員と出会えた4年間に、感謝・感謝です。ありがとうございました。

## 短い期間でしたが、 大変お世話になりました

総合経営学科 准教授 鈴木 智之



在職中は、公私ともに格別のご高配を賜りましてありがとうございました。改めてお礼申し上げます。松本大学の今後のさらなるご発展を祈念しております。

## 美しい松本平

学校教育学科 准教授 國府田 祐子



教育学部の設置年度から4年間お世話になりました。授業や委員会、研究を通して先生方、職員の皆様、学生と密度の濃い年月を過ごすことができ、感謝しております。

大学から約2kmの所に、国文学研究者・歌人の窪田空穂記念館があり、アウトキャンパススタディで毎年、訪問しました。空穂の作品に、「雲よむかし初めてこの野に立ちて草刈し人にかくも照りしか」という和歌があります。新村や和田の地の開拓者たちへ思いを馳せ、ひたむきに働く人々を讃美した歌です。着任した頃この歌を知り、強い衝撃を受けました。新たな土地での希望と覚悟をこの歌の中に見出したのだと思います。

ご縁のあった皆様のお顔と、美しい松本平の風景を心に留め、ここでの経験を次の大学でも生かしてまいります。ありがとうございました。

## 4年間お世話になりました。

学校教育学科 専任講師 内藤 千尋



教育学部開設から4年間、大変お世話になりました。埼玉で生まれ育った私にとっては、研究室から見える自然豊かな景色に癒される日々でした。「鐘の鳴る丘」で有名な有明高原寮(少年院)や、刑務所内に唯一公立中学校がおかれている松本刑務所のある地に住むことができたことも、研究テーマとかかわりとても嬉しいことでした(研究テーマ:非行少年と発達支援)。本学では学生から多くのことを教わり、また、教職員のみなさまに助けられるなかで教育の難しさとおもしろさを知ることができました。さらにコロナ禍では、対面でやりとりをできることの有難さも痛感しました。一期生と同じタイミングで「卒業」しますが、松本大学での出会いや学びを今後につなげてまいりたいと思います。松本大学・松本大学松商短期大学部の更なるご発展と、お世話になった皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

## お世話になりました。

キャリアセンター 主事 丸山 正樹



大学を卒業してから、43年間学校職員として勤務し本学には、2011年からお世話になりました。学生課で5年間、キャリアセンターでの5年間は、学生への指導や支援を通して多くの学生と出会うことができました。学生課では、大学祭をはじめとする学生主体の行事に参加し、楽しい思い出が浮かびます。キャリアセンターでは、学生から内定報告を受けたときは、学生とともに喜んだ思い出は数知れません。私にとって、この10年間の経験は宝物です。お世話になりましたことを心より御礼申し上げ、松本大学の更なる発展をご祈念いたします。

## 女子ソフトボール部

### “松本のお母さん” ありがとうございました

昨年12月、10年間ソフトボール部の寮母として、部員を食から支えてくださった大野みはるさん、神山邦子さんがご退職されました。部員にとっては寮母以上の“松本のお母さん”のような存在であり、いつも温かく見守り、応援してくださいました。

振り返ると、私が大学2年生の時から寮食

が始まり、私は卒業するまでお世話になりました。お二人がいらっしゃる前は自分たちで食事を作っていたので、寮母さんが作ってくださる食事は本当にありがたくて、美味しくて幸せでした。いつも「今日のご飯は何か」と楽しみに帰っていたことが懐かしく思い出されます。

毎日の「おはよう」と「おかえり」、そして心休まる笑顔とおいしいごはんのおかげで、どんなに辛く苦しいことがあっても、また頑張ろうと思えました。そうした中で私たちは



心も身体も大きく成長できたように思います。我が子のように一人一人に寄り添ってくださったってこと、今でも忘れられません。長い間、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

(女子ソフトボール部コーチ 山崎 奈美佳(4期生主将))

青森からこの松本の地へ移り住んで早4年。松本は、東京にも名古屋にも、そして、札幌にも福岡にも「1本」で、アクセスが可能な地だ。今あげた場所が、単に政令指定都市だということ述べていわけではない。これらの都市には全て「四季劇場」があるのだ。

遡ること十数年前、小学校教員だった私は、たまたま筑波の教員研修センターで1ヵ月間の研修生活を送ることとなった。週末、ミュージカルに誘われた私だが、その時は「大人の学芸会に、何で、そんな大金を払うのか?」と大した期待はしていなかった。演目は「ウィキッド」。オズの魔法使いの主人公ド

ロシーが、オズの国に迷い込むよりも前の話をミュージカルにしたものである。人生で初めてのミュージカル。舞台の手前にはオーケストラピット。生の演奏が行われ、迫力は満点である。私はその第一幕終盤、オーケストラの生演奏に負けないキャストの歌声に感動し、涙があふれ、止まらなくなった。すごい、素晴らしい!第一幕が終了し休憩時間となったが、座席から一歩も立ち上がれない状態に…まるであしたのジョーのように。

その後、様々なミュージカルを参観しに全国の四季劇場を訪れたのだが、何分、青森からだと時間的にも金銭的にも手軽とは言え

ない。そんな折、この松本大学と縁あってこの地に移り住むこととなった。松本は素晴らしい!東京の四季劇場にも、名古屋の四季劇場にも、気軽にアクセスできるのだ!(まあ、青森と比べているので…)

そして、劇団四季は長野県と縁が深い。なんと大町市に「劇団四季浅利慶太記念館」があるではないか。早速、車で向かい訪れると…そろそろ、文字数の制限となってしまった。皆様には是非、一度劇場に足を運び、その素晴らしさを体感していただきたい。(現在、一部四季劇場は閉鎖中)

Information

OPEN CAMPUS 2021

午前の部 10:00▶12:30 (受付9:30から) 午後の部 13:00▶15:40 (受付12:30から)

●松商短大限定

[日時] 4/18 [内容] 松商短大1日体験、個別相談(入試・授業・資格・就職・学生生活なんでも相談) etc.

●松本大学・松商短大 同時開催

[日時] 5/23 6/27 7/18 8/1 8/22 9/25 [内容] 松本大学・松商短大概要説明、学科説明、ミニ講義、個別相談(入試・授業・資格・就職・学生生活なんでも相談) etc.

- 常に衛生的で清潔な環境をご提供
- 会場内はマスクの着用
- 会場内を定期的に消毒
- 会場内の換気を徹底
- ソーシャル・ディスタンシング対策



事前申込制 参加申し込みは、webから

途中退出自由

保護者1名のみ参加可



- 定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。ご了承ください。
- 当日の詳細スケジュールは、ホームページでご確認ください。

内容に変更が出る可能性があります。ご来場前にはホームページにて最新情報をご確認ください。

無料シャトルバス運行

松本駅から松本大学間の無料往復シャトルバスを30分間隔で運行します。また、駐車場も開放しますので、お車でもお越しいただけます。

硬式野球部 関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード
第1節	4	3	土	上武大学 — 松本大学
		4	日	松本大学 — 上武大学
第2節	4	10	土	関東学院大学 — 松本大学
		11	日	関東学院大学 — 松本大学
第3節	4	17	土	新潟医療福祉大学 — 松本大学
		18	日	松本大学 — 新潟医療福祉大学
第4節	4	24	土	白鷲大学 — 松本大学
		25	日	松本大学 — 白鷲大学
第5節	5	8	土	作新学院大学 — 松本大学
		9	日	作新学院大学 — 松本大学
第6節	5	15	土	山梨学院大学 — 松本大学
		16	日	松本大学 — 山梨学院大学
第7節	5	22	土	平成国際大学 — 松本大学
		23	日	松本大学 — 平成国際大学

\*試合会場、開始時間は、関甲新学生野球連盟のホームページでご確認ください。

受験前の不安や疑問を解決します

『個別入試相談』  
随時受付中

日時

平日9:00~17:00の間で応相談

※お問い合わせ・実施ともに上記時間内となります。  
※土日祝日および本学が定めた休館日は実施いたしません。

申込方法

事前に電話でお申し込みいただき、日時をご相談いたします。

入試広報室まで  
お問い合わせください。

☎0120-507-200

編集後記

今年度は新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。入学式は代表者のみで開催、前期授業は原則遠隔で後期授業は原則対面となり、課外活動や部活動も前期は一部を除いて中止、後期はガイドラインに従って制限された中で行われました。就活も全面オンライン面接や企業の採用中断から対面や採用再開の流れとなりました。年初には再び感染状況が悪化しましたが、その後持ち直すことができました。基本的感染症対策を徹底したうえで、どのような状況でも、何をすべきかを考え、判断し、他人と協調して実行すれば、より良い方向に進めることができることを再認識しました。頑張ったすべての人にエールを送ります。ありがとう、そして、君に幸あれ!

(記・入試広報委員長 山田 一哉)